

恵みと真理のニュース



2013 年 8 月の四次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】 私の 6 人姉妹に愛し仕える尊い勸士職分をくださいました。

私は伝統的な儒教家庭で 6 人姉妹の長女で生まれました。足りない物無く恵まれた家庭で特に長女なので親戚と隣り人から愛を受けながら育ちました。小学校を卒業するごろ田舎の里長であった父が村の公会堂を貸して私たちに教会に行きたくて良い事を習いなさいと言われました。聖書の御言葉とキリスト教の信仰については知らなかったがただ教会に行きたくて賛美を字を読む事がよくて頑張って通いました。私が積極的な性格だから教会でも褒められて高等部の聖書学校も終了して児童部の教師手として奉仕しました。

19 歳になる年に不信仰の家庭で育った旦那と結婚しました。結婚したら夫の実家の家風に従うのだと父の言葉によりその時から教会と離れて生きました。旦那に絶対に従順することが良い事だと思ひ 3 男 1 女を生み育てながら 40 歳になるまで与えられた事に頑張りました。農業した旦那が体が弱くなってもうこれ以上農業が出来なくて仕方なく私が呉服商を始めました。思ったより良く売れて家も買い土地も買う余裕が出来ました。ところが、末子の息子が高等学校を卒業した後勉強すると言ひ家を出して行方不明になりました。あちこち捜しましたがどこでも息子の行方は知りませんでした。ぱっと気がついて “あ！神様が私を呼んでいる” と思ひました。その間、神様を忘れて生きて来たが神様は私を忘れてなくて息子を通して眠っていた私の魂を起こしてくださったのです。

元巫女であった祖母は私が伝道して勸士になりましたが、私はむしろその間神様と離れて世の事だけ集中して惜しい時世を浪費していました。そんな私を神様は鍛錬させ再び教会に導き信仰も回復してくださいました。神様を忘れて生きた時世を真に悔い改め涙を流しながら主を求めました。神様に息子の生死禍福も委ねただけで神様が息子を守ってくださいました。祈りました。“なぜうなだれるのか、わた

しの魂よ／なぜ呻くのか。神を待ち望め。わたしはなお、告白しよう／「御顔こそ、わたしの救い」と。わたしの神よ。” (詩篇 43:5) 御言葉で慰め力を得てこれからは決して主を離れないと思ひ、念を押しました。神様は私の心を安定させてくださり苦しみを克服する力をください、息子が無事に私の心に来る確信と希望もくださいました。その間執事の職分も受け、教会と生徒を仕え奉仕する事に熱中でした。そして 4 年が過ぎたある主日に末子が家に帰って来ました。とても感謝で教会で証しました。やや過ぎて神様の恵みと摂理で長男が真実な配偶者に出会い教会で結婚礼拝を捧げ神様に感謝を捧げました。

旦那が具合が悪くて田舎の土地と家を全て整理してここアンサンに引越しようとして計画しましたが、不動産の規模が大きすぎて土地を買おうとする人がいなかったです。引越しの期間になったので切なく神様に祈りました。すると隣りの家の人々と里長と力を合わせて私の土地と家を買ってくれました。神様が彼らの心を一にさせてくださり私たちを導いてくださいました。それで値ごろで問題なく引越しが出来ました。引越しをして仕える教会を決めるためまず神様に祈りました。すると神様は恵みと真理教会に通っていた長男の嫁の友たちを通して私の家族を恵みと真理教会に導いてくれました。その時にはアンサンに聖殿が立てる前でしたのでアンサン聖殿に通いましたが行き来がそんなに遠く感じませんでした。当会長牧師が話してくださいました。説教が耳に入り感動を受け主に対する信仰と愛が日々深くなりました。区域で、教会の中ですばらしい信仰を持っている人々に出会いたくさんの恵みを受け信仰生活に活力と喜びが溢れました。

旦那が仕事ができなくて私が食堂を運営しながら頑張って礼拝を捧げました。教区長が家に訪問に来たとき私が暇を盗んで聖書を創世記からヨハネの黙示録まで読む事を見て驚きながら褒めてくれました。そして区域長として勸

めてくださり 67 歳に区域長の尊い栄光な職分も受けました。

昼は頑張って食堂で働いて夜には私の区域の人々と楽しく礼拝主を捧げました。区域の人々の様々な事を通して恵みを受けました。頑張って福音を伝えて伝道の実りを得るとそれよりも幸せな事が無かったです。旦那が肺がん診断を受け介護をする時に勸士職分を受ける機会が来ました。その時にはその尊い職分の役割を担えられない環境と事情だと思ひ見合わせました。旦那のため祈り見守って介護するうちに旦那の頑な心が開きイエス様を受け入れました。病気が治った以上に嬉しくて感謝でした。旦那は私が聖書を読み賛美を捧げると全ての苦痛を忘れて平安になりました。そして礼拝を捧げる時には患者ようではなく明るくて明るい顔でして天国に召されました。

私は昨年 2012 年 3 月 1 日、勸士職分を受けました。今まで私だけでなく私の 6 人姉妹全てが言葉で表現できないほど大きい神様の恵みと愛を経験して頑張って教会と生徒を仕えみんな勸士になりました。また孫も信仰がある配偶者に出会えるまで頑張って結婚のため祈りする時に区域の一人の執事が願っていた姉妹を紹介して昨年教会で結婚礼拝を捧げうちの教会を仕える信仰の家庭を作りました。世の何よりも尊い信仰の遺産を伝える事がとても嬉しくて感謝でした。

神様が私が悔い改め真実に神様を畏れ委ね愛すると私の祈りにいつも答えてくださり多いしるしを見せてくれました。私が体験した神様の恵みと権能の事がいちいち字で書くこと限りません。“主は渇いた魂を飽かせ／飢えた魂を良いもので満たしてくださいました。” (詩篇 107:9) 魂が恵まれた後予言した御言葉のように全ての面で恵まれ、健康になるように導いた主の恵みに賛美捧げます。主がくださるその日まで主が呼んでくださるその日まで心を尽くして力を尽くして主だけを愛し捧げます。ハレルヤ！



【信仰コラム】 信仰を持(も)ったことによる幸(しあわせ)

“さて、信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見えない事実を確認することである。昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された…” (ヘブライ人への手紙 11:1-3)

聖徒は信仰の中(なか)で暮(く)らしています。しかし実際(じつさい)に“信頼(しんらい)が何(なん)ですか?”という質問(しつもん)を受(う)けることになれば、明快(めいけい)に説明(せつめい)することが容易(ようい)ではないです。信仰という言葉(ことば)が持(も)っている意味(いみ)が非常(ひじょう)に深(ふか)くて広(ひろ)く範囲(はんい)は広い(ひろ)いからです。私(わたし)たちは一生(いっしょう)の間(あいだ)信仰(しんこう)に関(かん)する話(わ)を聞(き)いて学(まな)びで理解(りかい)の幅(はば)を広(ひろ)げて行(い)かなければなりません。本文(ほんぶん)は信仰を定義(ていぎ)した言葉(ことば)です。“信仰は望(のぞ)むものたちの実像(じつざう)であり、見(み)ることができないものの証(しょう)”という言葉(ことば)は“信仰は望(のぞ)みを支(ささ)えるための土台(どだい)として望(のぞ)むことが成(な)し得(え)て負(ま)けることを保証(ほしょう)してくれて、見(み)えないものが実在(じつざい)することを確実(かくじつ)に証明(しょうめい)するものだ。”と解釈(かいしゃく)することができます。共起(きょうき)は目(め)に見(み)えないが息(いき)をしていることで空(くう)気がある(ある)ことを証明(しょうめい)するように、韓国(かんこく)にあり信仰はその信(しん)じる対象(たいしょう)の实在(じつざい)を証明(しょうめい)してくれま

す。ところでここで欠(か)かせないとも重要(じゅうよう)な事実(じじつ)があります。私(わたし)たちが持(も)っていた信仰の出所(しゅっしょ)、信仰の根拠(こんきよ)は何(なに)かです。それはただ記録(きろく)された神(かみ)様(さま)の言葉(ことば)、聖書(せいしょ)です。私(わたし)たち人生(じんせい)をまことに幸福(こうふく)にしている信念(しんねん)は自分(じぶん)から始(は)まった信念(しんねん)や確信(かくしん)とは全然(ぜんぜん)違(ちが)うのです。・キリストの言葉(ことば)、神(かみ)様(さま)の話(わ)を聞(き

く)ようになることで持(も)つようになっている信念(しんねん)です。。。だから、私(わたし)たちが信(しん)じる心(こころ)を得(え)るには、神(かみ)様(さま)のお言葉(ことば)を聞(き)いて知(し)らなければなりません。ここでまた一(ひと)つははっきりしておくことがあります。神(かみ)様(さま)のお言葉(ことば)を聞(き)いて持(も)つようになっている信念(しんねん)が我々(われわれ)自身(じしん)の知性(ちせい)と洞察(とうさつ)力(りきょく)から出(で)たのではないということです。聖書(せいしょ)に啓示(けいじ)されたことを信(しん)じている信念(しんねん)を持(も)つことは神(かみ)様(さま)の恩恵(おんけい)がなければ不(ふ)可能(かのう)です。“イエスがキリストで、生(い)きていた神(かみ)様(さま)の息子(むすこ)だ。”という信仰は、神(かみ)様(さま)の主権(しゅけん)的(てき)恩恵(おんけい)を受(う)けず人間(にんげん)自(み)ずから持(も)つことができません。神(かみ)様(さま)のお言葉(ことば)を聞(き)いて悟(さと)りと信仰を持(も)つようになるのは福(ふく)の中(なか)に福(ふく)です。皆(みんな)さんがどれほど大(おお)きな福(ふく)を受(う)けた人々(ひとびと)かを確実(かくじつ)にするため、いくつ質問(しつもん)をします。

第(だい)一(いち)に、天地(てんち)万物(ばんぶつ)は神(かみ)様の(ことば)で創(そう)造(ぞう)されたことを信(しん)じますか? 第(だい)二(に)に、神(かみ)様(さま)が罪人(ざいにん)を救(きう)済(さい)するために、彼(かれ)の御子(みこ)を世(よ)に送(おく)ったと想(おも)いを信(しん)じますか。第(だい)三(さん)に、イエスさまが予備(よび)された天国(てんごく)があり、イエス様(さま)を信(しん)じるすべての人(ひと)が天国(てんごく)で暮(く)らすようになることを信(しん)じますか。第(だい)四(よ)に、神(かみ)様(さま)が聖徒(せいと)たちの祈(いの)りを聞(き)いて彼(かれ)の無限(むげん)た能力(のうりょく)と知恵(ちえ)として回答(かいとう)してくれることを信(しん)じますか? 五(ご)番(ばん)め、神(かみ)様(さま)は私(わたし)たちが負(ふ)担(たん)しないことが試(し)験(けん)されことを許(ゆる)さず、ことを信(しん)じますか。このような質問(しつもん)について“はい、信(しん)じます。”と答(こた)える人(ひと)は実(じつ)に大(おお)きな福(ふく)を受(う)けた者(もの)です。本文(ほんぶん)にまた、“先(せん)

せんしん)がこれで証(しょう)を得(え)たのだよ”しました。ここに“先(せん)進(しん)ら”というヘブライ書(しよ)11 章(まい)に記録(きろく)された信仰の人々(ひとびと)を含(ふく)めて旧約(きゅうやく)時代(じだい)に信仰によって生(い)きたすべての人(ひと)たちを言(い)います。“信(しん)じるすべての者(もの)の祖先(そせん)”という称号(しょうごう)を得(え)たアブラハムやイサク(アブラハム)やイサク(アブラハム)の約束(やくそく)した言葉(ことば)に根拠(こんきよ)な信念(しんねん)を持(も)ちました。アブラハムは目(め)に見(み)えず環境(かんきょう)に何(なん)の証(しょう)もなくただ神(かみ)様(さま)の話(わ)を聞(き)いて信(しん)じて見(み)えないことを見(み)るよう、ないことをあるように思(おも)って行動(こうどう)しました。彼(かれ)は聖徒(せいと)の信仰がどんなものかを示(しめ)してくれた手本(てほん)になりました。

聖書(せいしょ)の信仰とは、聖書(せいしょ)に記録(きろく)された神(かみ)様(さま)の言葉(ことば)に基(もと)づく信頼(しんらい)です。話(わ)に基(もと)づいてみたことがなくても信(しん)じます。見(み)られないとしても信(しん)じます。ないことをあるように呼(よ)びます。現在(げんざい)所有(しよゆう)していないことだが、所有(しよゆう)したことや、変(か)わらず思(おも)って、現在(げんざい)見(み)えないが見(み)えるように思(おも)うのが信頼(しんらい)です。私(わたし)たちがイエス・キリストを信(しん)じる信念(しんねん)を持(も)つことを無限(むげん)に喜(よろこ)んでいなければなりません。聖書(せいしょ)の言葉(ことば)を信(しん)じる信念(しんねん)を持(も)つことにより、感謝(かんしゃ)して喜(よろこ)んでいなければなりません。このような信念(しんねん)を持(も)ったことが決(けつ)して当(あたり)前(まえ)のことではありません。皆(みんな)さんは、このような信仰を持(も)ったという事実(じじつ)によって楽(たの)しんで、幸福(こうふく)感(かん)を持(も)って生(い)きてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

悔い改めと天国



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

聖書で悔い改めという言葉と天国という言葉を除きさせてしまえばイエス様教は他の宗教たちとあまり違う事がないです。正確に言わばそれはキリスト教ではないです。イエス様は公生涯の始めから“悔い改めなさい天国が近づいて来た。”と宣布したし弟子たちにも“悔い改めなさい天国が身近に来了。”と伝えるように言い付けました。だからすべての人は悔い改めと天国に対して確かに分かなければなりません。

第一は、悔い改めに対してよく見ます。

聖書は二つの種類の悔い改めに対しておっしゃっています。罪の赦しと永生を得るようにする悔い改めと神様をうれしくする生のための悔い改めがあります。

先に、罪の赦しと永生を得るようにする悔い改めに対して説明します。

“罪の赦しを得るようにする悔い改め”という言葉はイエス様がおっしゃった言葉です。復活したイエス様が弟子たちが集まった家に現われて彼らの中に立ってられて“あなたがたに平安がいるべきだ。”とおっしゃいました。そしてまたおっしゃるのを“こう、しるしてある。キリストは苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえる。そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔い改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる。あなたがたはこれらの事の証人である。”(ルカによる福音書 24:46~48) しました。“命を得る悔い改め”という言葉は使徒ペテロの経験話を聞いたイエス様の弟子たちが言ったのです。ペテロが異邦人百卒長ゴネルリヨの家へ行って説教したがそこに集まった異邦人たちがペテロが伝えた神様の言葉を受け入れたというわさがユダヤ人たちに知られました。ペテロはユダヤ人たちにその事をきちんきちんと説明しました。

神様が幻想で彼に見えたり異邦人百卒長には天使を送って指示した事実と彼が福音を伝える時にその所に集まった人々に聖霊が臨んで彼らが方言を言って神様を高めた事実を言いました。ユダヤ人たちがペテロの言葉を聞いて静かで神様に光栄をささげながら言うのを“人々はこれを聞いて黙ってしまった。それから神をさんびして、「それでは神は、異邦人にも命にいたる悔い改めをお与えになったのだ」と言った。”(使徒行伝 11:18) しました。“命を得る悔い改め”と言いました。ここで命と言うのは永生を言います。“罪の赦しを得るようにする悔い改め”“生命得る悔い改め”という言葉は悔い改めによる神様の恩寵を明確に説明しています。悔い改めは罪の赦しを得るようして永生を得るようになります。

それではどのようにするのが悔い改めですか？イエス様が叫ぶのを“「時は満ちた、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」。”(マルコによる福音書 1:15) しました。

福音を信じる事が悔い改めです。罪の赦しを得るようになる悔い改めであり、永生を得るようになる悔い改めです。それでは福音が何ですか？イエス様がすなわち福音です。解いて説明すればイエス様が私たちの罪を代わりにあがないしようと世の中へいらっしやって十字架に釘つけられてまた死人の中から復活したという消息が福音です。イエス様と無関係な自分の省察と悔やむ事は悔い改めではありません。イエス様を救い主に信じて迎接するのが罪の赦しを得るようになる悔い改めであり、永生を得る悔い改めです。人が悔い改める姿より感動的で美しい事はないです。地獄に入って行く人が引き上げて天国に進むようになるからです。イエス様がおっしゃるのを“よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよろこびがあるであろう。”(ルカによる福音書 15:10) しました。次では、神様をうれしくする生のための悔い改めに対して説明します。

この悔い改めは自分を省察して過ちを悔やんで直す事を意味します。罪の赦しと生命得る悔い改めを一人は一生の間生きて行きながら悔やんで直す悔い改めをするようになります。これが正常なクリスチャンの姿です。新しい命を得るようになった人は神様が嬉しくできなければ神様の言葉によって心に突かれる事を受けます。聖霊様のしかるのを感じます。そして一生の間悔い改めながら生きて行きます。この世の中に風潮を無分別によって行った事を悔い改めなければなりません。“あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。”(ローマ人への手紙 12:2) しました。光の実がない事を悔い改めなければなりません。“あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあつて光となっている。光の子らしく歩きなさい。光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである”(エペソ人への手紙 5:8,9) しました。歳月を浪費する事を悔い改めなければなりません。“今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである。”(エペソ人への手紙 5:16) しました。“いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。”(テサロニケ人への第一の手紙 5:16~18) しました。このような神様の思った通りに行う事ができなかつたらこれを悔い改めなければなりません。

“罪の赦しと命得る悔い改め”なしに暮す事は無意味な生の連続であるだけです。彼が何をしてもそこには永遠な価値がないです。そして“悔やみながら直す悔い改め”がない聖徒は恥ずかしい救いを受けるようになります。一方に悔やんで直す悔い改めがお上手な人は神霊な実をたくさん結ぶようになって主の仕事がたくさんするようになります。

二番目は、天国に対してよく見ます。

死後世界に関しては聖書に記録された言葉で満足しなければなりません。死んだ人が行くようになる所として福楽を享受する所に対して“樂園、神様の国、天国、父の家、イエス様が予備なされた家、新しいエルサレム”に形容されました。多様に形容された用語が現わす特徴をよく見ればもうちょっと幅広く理解する事ができます。

“樂園パラダイス”と形容しました。

イエス様が十字架に釘を打たれた時イエス様の左右の方にも十字架がたてられたし凶悪犯ふたりがぶら下げられました。ふたりの中に一りがイエス様を誹謗すると他の一りがそのなかまを叱りました。彼はイエス様を天国の主権者で信じてイエス様に自分を寄り掛かる懇求をしました。イエス様が彼に答えるのを“イエスは言われた、「よく言うておくが、あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう。」”(ルカによる福音書 23:43) しました。“神様の国”と形容しました。“神様の国”は全知全能なさって善良な神様が親しく治める国です。“天国”と形容しました。イエス様が伝えるのを“この時からイエスは教を宣べはじめて言われた、「悔い改めよ、天国は近づいた」。(マタイによる福音書 4:17) しました。“父の家”と形容しました。イエス様が親しくおっしゃるのを“わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言うておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。”(ヨハネによる福音書 14:2) しました。“イエス様が予備なされる場所”と形容しました。イエス様がおっしゃるのを“そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。”(ヨハネによる福音書 14:3) しました。“新しいエルサレム”と形容しました。“また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。(ヨハネの黙示録 21:2) しました。“樂園、神様の国、天国、父の家、イエス様が予備なされた家、新しいエルサレム”という名称の中“神様の国”あるいは“天国”は皆を包括する名称です。聖書には私たちが分かりたい事を皆言ってくれないが私たちが現世で分かなければならない必要がある事だけは啓示してくださいました。天国の実際の姿に対して詳しく調べましょう。ヨハネの黙示録 21章と22章に見れば“新しいエルサレム”の美しくて栄える姿に対して詳しく描いています。城外で見た姿はその城の光が極めて珍しい宝石みたくて碧玉と水晶のように清いです。その城郭は碧玉で積もったしその城は正金なのに清いガラスみたくです。基礎石は各種宝石で構えました。城の中は道が清いガラスみたくな正金になっています。道の中水晶のように清い生命水の川が流れます。川の左右に生命の木があって12種類の実を結びます。天国にないものなどのリストを見たら(黙示録 21:4,8, 22:3~5) 死亡がないです。哀痛する事や大声で泣くのがなくて痛いのがないし夜がないです。神様の光栄が照らして幼いひつじがあかりになります。俗っぽい、加増した仕事、うそつく者がいないです。呪いがなくて悪魔がないです。天国にはすべてのものがいつも新しさを持ちます。古くなってきたなくなって衰えて腐られる事は存在しないです。私たちは想像力を総掛かりして聖書に記録された天国を描いて見ます。しかし私たちが実際に天国に入る瞬間“想像より、聞いたより数千万倍やかっこうよい。”と嘆声を上げるようになるでしょう。このような天国には誰が入って行くようになりますか？その返事はとても簡明します。イエス様が宣布するのを“悔い改めなさい天国が身近に来了。”しました。天国に入ろうとすれば罪の赦しと永生を得なければなりません。罪の赦しと永生を得ようとするれば悔い改めなければなりません。イエス様を信じて迎接するのが罪の赦しと永生を得る悔い改めです。聖徒の皆さんは罪の赦しと永生を得る悔い改めをして天国の民になりました。もう皆さんは神様を嬉しくする者になるのための悔い改めをしながら生きて行く事で神様の前に立つ日ほめ言葉と賞を受けるようにお願いします。